

第9回 生涯学習賞 受賞者

受賞者発表 上田 正昭 「生涯学習賞」選考委員長
(亀岡市名誉市民・京都大学名誉教授)

期 日：平成21年11月3日(火)文化の日
会 場：ガレリアかめおか大広間

亀岡市

生涯学習大賞 『石田梅岩賞』

受賞者 あかまつ りょうこ
赤松 良子 氏

【財団法人日本ユニセフ協会会長】

略 歴 大阪府出身。1953年東京大学卒業。同年、労働省入省。1979-82年国連代表部公使（ニューヨーク）。1983-86年労働省婦人局長。1985年

に男女雇用機会均等法を成立させた中心人物。1986-89年駐ウルグアイ特命全権大使、1993-94年文部大臣。2003年、旭日大綬章授章。

現在、財団法人日本ユニセフ協会会長。津田塾大学理事。

選考理由

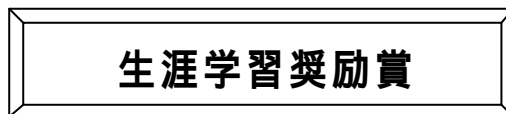
労働省在職中には、勤労婦人福祉法の立案にあたり、育児休業制度をはじめ導入したほか、男女雇用機会均等法成立に深く寄与し、我が国における女性の地位向上に大きく貢献した。

また、国際連合において女性差別撤廃条約の成立にも深く関わり、その国内法整備に努められ、労働省退官後も、男女雇用機会の均等を含む女性の地位向上に貢献された。

近年は、日本ユニセフ協会会長として、飢餓に苦しむ子どもたちの人権擁護等の国際協力に関する啓発活動を行うなど、国際的にも極めて顕著な功績を高く評価するとともに、深く敬意を表し、生涯学習大賞『石田梅岩賞』を贈呈する。

【主な著書】

- 「女性の権利 - ハンドブック女性差別撤廃条約」2005年 岩波書店
- 「均等法をつくる」2003年 勁草書房
- 「うるわしのウルグアイ - 女性大使の熱い三年」1990年 平凡社
- 「志は高く」1990年 有斐閣 ほか



受賞者

かめおかしよくせいかつかいぜんすいしんいんきょうぎかい
亀岡市食生活改善推進員協議会

<亀岡市>

(会長 山崎美代子)

概要

昭和40年度から京都府が実施した地域の栄養改善のための人材育成研修である「栄養教室」の修了者が「亀岡保健所管内栄養教室修了者団体」を発足させ、昭和50年に現在の協議会名に改称。「私達の健康は私達の手で」を合言葉に、健康の基本である食生活の改善と食育の普及・啓発活動を進めている。

選考理由

発足以来40年間にわたり、京都府や亀岡市の健康増進事業を「食生活改善」の側面から積極的にサポートしている。

現在は、市民の健康増進のための「食育」の推進を目指して、組織

の中に専門的なグループを形成し、自治会や地域組織と連携した取り

組みを進め、市民に親しまれる組織として活動している。

こうした取り組みは、自主的な生涯学習の実践と推進に大きく貢献していることから、生涯学習奨励賞を贈呈する。

受賞者

しゃだんほうじん しんがくめいせいしゃ
社団法人 心学明誠舎

<大阪市>

(理事長 堀井 良殷)

概要

天明5年(1785年)に大阪で開設され、江戸時代における上方の心学講舎として重きをなしてきた。明治38年(1905年)に社団法人となり、今日まで庶民の生涯教育の一役を担い続けている。

石田梅岩翁の門人達が、全国に広めた心学講舎のひとつ。

選考理由

昭和20年5月の大阪空襲による舎屋焼失し、活動が休止したが、戦後、復興の機運が高まり、再発足し、昭和30年(1955年)1月13日の第1回例会から現在まで、300回を超える例会を継続してきた。「サマーセミナー」、「早春セミナー」のほか、「石門心学講演会」、「明誠舎所蔵物展示」など多くの学びの場を提供し、その地域に根ざした活動を高く評価し、生涯学習奨励賞を贈呈する。

「生涯学習賞」表彰実施要領(要旨)

亀岡市は、生涯学習都市宣言の基本理念を広く内外に発信する表彰制度として「生涯学習賞」を設けています。「生涯学習賞」は、全国各地域の生涯学習によるまちづくりの推進に寄与するとともに、市民の生涯学習意識のさらなる醸成ならびに文化水準の向上に資することを目的としています。本市は、日本における

生涯学習の先駆的推進者である石門心学の祖、石田梅岩翁の生誕の地として、また、男女共同参画を基本に生涯学習のまちづくりを進める地として生涯学習の意義を市内外に広く呼びかけるものです。

生涯学習大賞『石田梅岩賞』

長年にわたり生涯学習の調査・研究活動に成果を上げ、生涯学習の振興に著しく貢献し、実践をしている個人あるいは団体・グループを対象とする。

生涯学習ゆう・あい賞『千登三子賞』

“人間尊重”(亀岡市生涯学習都市宣言)にふさわしく、一人ひとりが互いに認めあい尊重しあう、人間の絆を深める生涯学習のまちづくりに精進し、男女共同参画社会の発展に大きく寄与している個人あるいは団体・グループを対象とする。

生涯学習奨励賞

亀岡市生涯学習都市宣言にふさわしい、地域に根ざした生涯学習によるまちづくりを実践している個人あるいは団体・グループを対象とする。

<選考委員> 委員長 上田 正昭(亀岡市名誉市民・京都大学名誉教授)

(敬称略) 委員 上杉 孝實(京都大学名誉教授)

佐々木高明(国立民族学博物館名誉教授)

波多野 進(京都学園大学学長)

山折 哲雄(宗教学者)

【表彰時期及び記念講演】

第9回「生涯学習賞」贈呈式と記念講演

とき 平成22年3月7日(日) 午後1時30分から(予定)

ところ ガレリアかめおか 大広間



生涯学習都市宣言

わたくしたち亀岡市民は

人間の尊重と

地域社会の一員としての自覚のもと

常に いま 何をなすべきかを

問いかけ合いながら

生涯にわたり学び続け

自己を高め連帯の絆を強めることにより

生きる喜びと

明るく豊かなまちに住む喜びの持てる

亀岡を目指し

ここに亀岡市を

「生涯学習都市」とすることを宣言する

昭和63年3月30日

亀岡市は、『協働』を市政の重要な視点と掲げ、市民と行政が真のパートナーシップを築き、様々な取組を計画的に実践し、まちづくりを推進していきます。

亀岡市民憲章

京都から西へ、老ノ坂を越えれば朝霧の晴れ間に亀岡盆地が広がる。
豊潤な水脈は、田園や里山に多彩な実りをもたらし、舟運を支えてきた保津川は、いまも溪流の舟下りで賑わっている。

古来、人びとは自然との調和やお互いの絆、家族のぬくもりを大切にしながら暮らしてきた。そこには石門心学が生まれ、円山応挙の芸術

が
地
に

育まれた。城下町のたたずまいを色濃くとどめ、華麗な山鉾が巡り、
域に根ざした芸能が息づいている。

そんな亀岡に生きるわたくしたち市民は、こうした平安の営みを未来
つなぐことを願って、市民憲章を掲げます。

く
す

- 水と緑の恵みを大切に、豊かな環境を次代に引き継ぐまちをつ
ります
- いのちを尊重し、共に輝き、心の通いあう家族とまちをつくりま
- 健やかな心とからだを育て、安らぎのあるまちをつくります